発行責任者 佐藤英樹

# 緑の風 NEWS

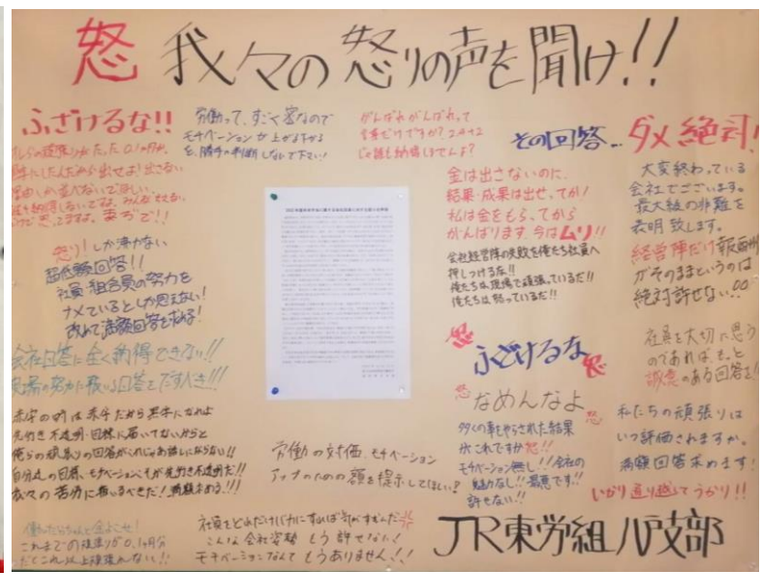
JR東労組

ＪＲ東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union　2022年11月12日　No.69

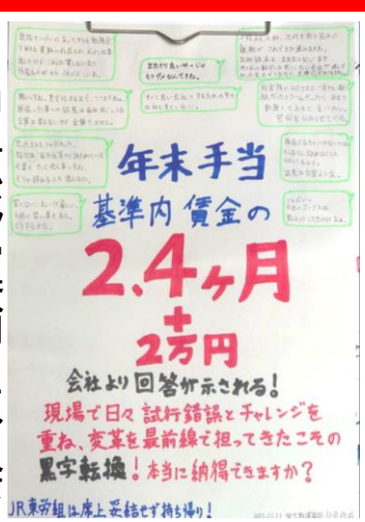
▶川崎運輸区分会

◀八戸支部



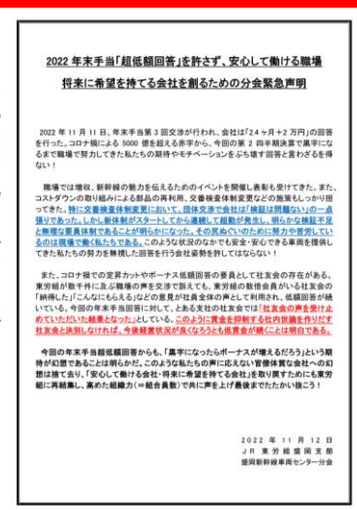

# 年末手当低額回答
# これが働く者の怒りの声だ!

▶習志野運輸区分会
津田沼駅班




▶大宮電力技術センター分会

▶盛岡新幹線車両センター分会



2022年年末手当「超低額回答」を許さず、安心して働ける職場
将来に希望を持てる会社を創るための分会緊急声明

2022年11月11日、年末手当第３回交渉が行われ、会社は「2.4ヶ月+2万円」の回答を行った。コロナ禍による5000億を超える赤字から、今回の第２四半期決算で黒字になるまで職場で努力してきた私たちの期待やモチベーションを公ら壊す回答と言わざるを得ない！

職場では増収、新幹線の魅力を伝えるためのイベントを開催し表彰も受けてきた。また、コストダウンの取り組みによる部品の再利用、交番検査体制変更などの施策もしっかり出ってきた。特に交番検査体制変更において、現体交渉で会社は「検証は問題ない」の一点張りであった。しかし、新体制がスタートしてから連続して組勤が発生し、明らかな検証不足と物理な要員体制であることが明らかになった。その気めくいのために努力や苦労しているのは現場で働く私たちである。このような状況のなかでも安全・安心できる車両を提供してきた私たちの努力を無視した回答を行う会社姿勢を許してはならない！

また、コロナ禍での定期カットやボーナス低額回答の要員として社友会の存在がある。東労組が数千件に及ぶ職場の声を交渉で訴えても、教労組の数倍会員がいる社友会の「納得した」「こんなにもらえる」などの意見が社員全体の声として利用され、低額回答が続いている。今回の年末手当回答に対して、とある支社の社友会では「社友会の声を受けとめていただいた結果となった」としている。このように賃金を抑制する社内労組を作りだす社友会と決別しなければ、今後経営状況が良くなろうとも低賃金が続くことは明白である。

今回の年末手当超低額回答からも、「黒字になったらボーナスが増えるだろう」という期待が幻想であることは明らかだ。このような私たちの声に応えない官僚体質な会社への幻想は捨て去り、「安心して働ける会社・将来に希望を持てる会社」を取り戻すために本労組に再結集し、高めた組織力（＝組合員数）で共に声を上げ最後までたたかい抜こう！

2022年11月12日
JR東労組岡支部
盛岡新幹線車両センター分会

**声を「受け止めた」としながら出さない！**
**職場の黒字化への努力に報いない！**
**この経営姿勢と会社回答に立ち向かおう！**

組合員だけでなく、未加入の皆さんもご意見をお聞かせ下さい！▼

**年末手当アンケート実施中！皆さんの声をお聞かせ下さい！**

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です